



玉川先賢彰徳行事 知っていますか？

毎年9月の
第1土曜日に
「玉川先賢彰
徳行事」がわ
らび座のゆぼ
ぼにおいて行
われています。



これは、玉
川の毒水（玉川温泉の温泉水はpH1.3強酸
性泉で玉川毒水と呼ばれていた）を中和して（現
在は中和処理施設によって中和している）田畑
に玉川の水を使用できるように（現在田沢疎水
・第二田沢疎水として農業用水として活用）江
戸時代から奮闘してきた先人たちをたたえよう
と、大曲仙北校長会が79年前、昭和13年に
功績をたたえる石碑を建立し、その年から「玉
川先賢彰徳行事」として行っている行事で
あります。

こうした先賢の挑戦・努力によって現在私た
ちは豊かな毎日を過ごすことができます。

抱返りクリーンアップ時に碑に足を運び、当
時の挑戦にふれ、感謝を表したいものです。

碑文現代語訳

仙北平野を流れる玉川の源は、八幡平の焼け山付
近にあり、強い酸性泉が湧き出しています。そのため、
魚は住まず、農作物の収穫は少なく、また、治水工事
も難しいことから毒水と呼ばれ、流域の農民を悩ませて
きました。

江戸時代の天保、嘉永、安政のころ、角館の田口
幸右衛門宗俊・宗辰父子、生保内の平鹿藤五郎
は私財を投じて、湧き出る泉を枯れさせる工夫を凝らし、
堤を造って熱湯の流れを変えたり、有毒ガスが水に溶
け込まないようにしたりするなど大変困難な工事にあた
りました。

やがて、玉川には魚が繁殖しだし、田地の収穫も増

えるようになり、人々に感謝されました。

その後、天災や戊辰の役などがあり除毒の施設が
荒廃しました。慶応年間には、鎌見内の小松市右衛
門が同士と共に再興を図りましたが、残念ながら目的
を達することができませんでした。

明治になり、先賢者の尊い遺志と流域住民の悲願
を実現するため、国や県が毒水排除を目指す努力を
続けています。

この碑は、玉川毒水排除に私財を投じ身命を捧げ
た先賢者の偉業をたたえ、永く後世に伝えようと、昭和
十三年に仙北教育会が建立し、その後、大曲仙北校
長会が引き続き現在に至っています。

昭和六十二年十月十七日

大曲仙北校長会

9月3日(日) 3年生修学旅行に出発

9月3日(日)から2泊3日で3年生は修学
旅行を実施します。訪問地は、東京・横浜。新
型コロナウイルス感染症の影響で、これまで中
止・縮小を余儀なくされてきましたが、今年度
はコロナ禍前と同様の規模で実施いたします。

活動のねらいは、(1)首都圏の文化、産業、
経済について見聞を広めるとともに、ふるさと
神代の魅力をまとめる活動を通して自分の将来
や進路について考える機会とする。(2)集団活
動や班別研修を通して主体的に活動する意欲を
培うとともに、協力性や社会性を養う。(3)集
団活動の決まりや宿泊のルール・マナーを遵守
し、公衆道徳を守って安全に活動する態度を身
に付ける。の3点です。達成に向け、努力して
くれることと期待しています。

本活動には、小遣いを含み約10万円の費用
を要しています。保護者の皆様には本当に感謝
いたします。多くの方たちの思いを忘れず、充
実した時間に、そして、元気に戻ってきてくれ
ることを願っています。